輝く小天っ子

小天小　学校便り
第　35　号
令和元年12月24日
文責：井上　加寿子

本年のご支援とご協力、ありがとうございました
皆様おそろいでよいお年をお迎えください

☆８月末の夏休み明けから今日までの８１日間、日常の教育活動に加え多くの行事がありましたが、保護者の皆様や地域の皆様方のご支援のお陰で、全児童・全職員が精一杯取り組むことができました。一つ一つの行事を通して子どもたちの大きな成長を実感しています。皆様のお支えに心より御礼申し上げます。

☆明日から子どもたちが楽しみにしている冬休みが始まります。「復習を中心とした学習」「規則正しい生活」をベースに、年末年始のご家庭の行事を通して、子どもたち一人一人が家族の一員としての有用感～「自分は家族にとってかけがえのない存在なんだ。」「家族のために働く（お手伝い等）って気持ちがいいな！」～を育んでいただきたいと思います。家族の愛情に包まれてしっかり充電した子どもたちは、１月からの教育活動にもきっと前向きに取り組めることと思います。

☆先週から本校でもインフルエンザや胃腸炎等の感染症も増加傾向にあります。病気の予防と事故から命を守る行動についても子どもたちへのご指導をお願いいたします。

☆冬休み明け、元気な子どもたちに会えますことを職員一同、楽しみにしています。皆様、どうぞよいお年をお迎えくださいませ。

おめでとう！★小天っ子のがんばり★

【玉名市　第27回　読書感想文コンクール】

◎優秀賞　2年　Aさん「ありときりぎりす」
◎入選　2年　Bさん「ええところ」
　　Cくん「ずうっと、ずっと、大すきだよ」
　　6年　Dくん「戦争を胸に『オットー』」

【熊本県　令和元年度「熊本の心」作文募集】

◎最優秀賞（熊本公徳会賞）
　4年　Eくん「ぼくの大好きな町天水」

Aくん、元気でね！

Aんが転居に伴い別の学校へ転出することになりました。寂しくなりますが、きっと新しい学校でも元気に頑張ってくれることでしょう!

元気に笑顔で最後のあいさつ運動をするAくん

＊受賞したAくんの作文です。Aくんが、小天のことを大好きだったことがよく分かりますね！

ぼくの大好きな町天水

小天小　四年　天水

ぼくの住んでいる天水町は、みかんの木にかこまれた自然ゆたかな地域です。春には、このみかん山は、白い花がいっぱいさき、ちょうちょやハチがとび回っています。夏には、青々とした山に変わっていきます。そして秋には、おいしいオレンジ色のみかんがたくさんなって、見上げると、みかん色にそまった山が美しく広がっています。

ぼくは、名古屋という街から引っこしてきました。それまでのぼくは、野菜やくだ物は、スーパーマーケットでしか見たことがなく、作っている人のこともあまり想ぞうがつきませんでした。そして何より、きせつによって変わっていく自然といっしょにすごしたことはありませんでした。

みかん山を下りていく片道三キロメートルの道のりが今のぼくの通学路です。登校はんの三人で毎日通っています。

ぼくと中でハチとも出会います。ハチにさされるのが、こわくて、みんなで全力で走ります。ちょうちょを見つけると、ぼうしでつかまえたりします。

ぼくは畑でおじいさんやおばあさんが、朝早くから仕事をしていて、ぼく達に声をかけてくれます。

「おはようございます。気をつけて。」

ぼくは、いつもうれしい気持ちになって、「おはよう。行って来ます。」

学校に行くことが出来ます。

ぼくは、この町の秋が一番好きです。理由は、山がみかんの色になり、甘ずっぱいかおりが、畑のおじいさんやおばあさんも、ニコニコしていて、気持ちがいいからです。

町売ちゃんがスーパーマーケットや色々な所で、とてもうれしいと、ぼくたちは、一年間毎日いっしょに見てきたみかんです。

物はただのスーパーマーケットにならんでいる物ではありません。

ぼくは、天水に来て、物に、作った人の心がこめられていることをあらためて知りました。ぼくたちが食べている物や使っている物にも、心という物があると考えるようになりました。

ぼくは、日々の生活でたくさんの事を学んだけでなく、ぼくたちが食べている物や使っている物にも、心という物があるゆたかな心を持っている熊本の心を大切にするゆたかな心を持つ大人になりたいです。